

令和2年度の具体的な学校経営目標・計画

令和3年2月 水島工業高等学校

学校経営目標	具体的計画	現状及び今年度の達成基準	中間達成状況と評価		最終達成状況と評価		
			達成状況	評価	達成状況	評価	
学習指導 (真の実力を身に付けさせる)	(1)授業を大切にさせ、基礎学力の定着を図る。	ICTを活用した授業によって生徒の授業に対する・興味・関心を高め、わかりやすく、視覚に直接伝える授業を展開し、体験を通して知識の定着を図る。	ipad・apple TVを活用した授業提案をし、多くの先生が、ICTを活用した授業を行い、指導法の工夫によって効果的な生徒の学力の定着を目指す。	ipadやPCを用い、動画やPowerPointなどを利用しながら授業を工夫する姿が見られる。	b	動画やPowerPointなどを利用しながら授業を工夫する姿が見られ、実習にも適用事例がある。更に拡大することで引継時等の負担軽減を目指す。	b
		資格取得をとおして、真の実力を身に付けさせ、やればできることを味わわせる。	授業をとおして、クラス全員が受験する資格取得の合格率が向上する。	授業を通じてクラス全員が受験する資格取得は1学期に実施していない。9月以降に再開予定である。	b	クラス全員が受験する資格取得が再開した。指導時間の大幅な減少に伴い合格率は例年通りであった。	b
	(2)新しい学習指導要領の理念と内容を理解し、体験的な学習の一層の充実とコミュニケーション能力の育成を図る。	新しい学習指導要領の内容を理解し、新しい教育課程の編成をする。	年に数回、教務委員会を開催し、新しい教育課程についての議論を深め、令和2年中に新しい教育課程の編成を行う。また、評価の方法についても、3観点を意識して次年度以降での改訂につなげる。	新教育課程表については各科から提出されたものを既にまとめている。特に大きな問題はなく今後の教務委員会、職員会議で了承して貰う予定である。	b	教務委員会、職員会議で承認をもらい、県からの指示に従って調整中である。	b
		アクティブラーニング型授業への取組を推進し、体験的な学習の充実とコミュニケーション能力の育成を図る。	ICT機器を利用した、研究発表や、課題の発表を行える授業展開を目指す。生徒は、人前で話す訓練をすることにより、コミュニケーション能力を身に付ける。	課題研究の発表会に向け、生徒が能動的にICT機器を利用したプレゼンテーションの作成に取り組んでいる。	b	生徒がこれまでの経験をもとにICT機器を利用したプレゼンテーションの作成に取り組んでいる様子が見られる。	b
(3)家庭学習の習慣化を図る。	(Google for Educationなどによる) 今まで実施していなかった、在宅での学習機会を創造する。	一通りの機能のテストを行い、教職員及び生徒を被験者とし、当校で採用できる機能の絞り込みや、つまづきやすい点などを確認する。	Google for Educationに教職員は概ねログインでき、家庭学習やアンケートなどに利用するノウハウが蓄積しつつある。	b	動画を利用したり、リモート学習やフォームの利用などノウハウが蓄積しつつある。	b	
	全学年の成績不振者への1・2学期末指導を実施する。また、年2回家庭学習時間調査を実施する。	昨年度は不認定科目が全学年で8であった。今年度は学期末の指導等により、昨年同様、不認定科目20以下を目指す。また、家庭学習時間調査で生徒の動向把握するとともに、休業中において適切な課題を各科にお願する。	1学期末の赤点総数は131で、昨年より54も増加した。長い臨時休業や中間考査が実施できなかったことも影響しているかもしれない。教務課による該当生徒を集めての指導は密を避ける観点から実施できないが、各科に補充や課題の指導をお願いしている。	b	2学期末の赤点総数は85で、昨年より115も減少した。教務課による赤点指導は1学期末は実施できなかったが、2学期末は会場を3か所に分散して実施した。	b	
生活指導 (思いやりの心を育てる)	(1)気持ちの良いあいさつを励行し、整理・整頓、清掃に努め、基本的な生活習慣を確立する。	全教職員の共通理解を図り、専門科の壁を越え全員で指導する。生徒会活動や校門指導をとおして、生徒自ら気持ちの良い挨拶ができるようになる。	昨年度は頭髪指導において、生徒課最終指導になった者が24名いた。今年度も減少できるよう日ごろから声をかける。生徒自らあいさつができてきた生徒が増えてきた。大きな声であいさつする人数をさらに増やす。	頭髪指導(2回)において生徒課最終指導になった者が2名いた。今年度も減少できるよう日ごろから声をかける。生徒自ら挨拶ができてきた生徒が増えてきた。大きな声で挨拶する人数をさらに増やしたい。	b	頭髪指導で生徒課最終指導が2回で2名、第3回で0名だった。昨年は3回8人、4回12人で昨年度より減少した。各科目担任の先生方の粘り強い指導の成果だと思う。今年度は新しい生活様式が求められマスクの着用などマナーを指導する必要がある。あいさつは生徒自らできる生徒が増えてきたように感じる。あらゆる場面で教職員が生徒の声をかけられている成果だと感じる。朝校門であいさつをしているが、続けていきたい。	b
		実習前にあいさつ練習を行い、あいさつへの抵抗感をなくす。また、整理整頓ができていないとどのような状況になるか想像させる。	気持ちの良いあいさつをし、実習後は、指示されなくても清掃活動ができるようになる。	あいさつ練習は行っていないが、あいさつ、清掃活動はきちんと行っている。ただ、清掃は指示をされないとどう動けばよいかからな生徒が多い。	b	あいさつ練習が行えなかったが声はきちんと出ている。清掃活動も自発的に動ける生徒が増えた。	b
	(2)生徒・保護者との信頼関係を一層密にし、きめ細かな指導を行う。	授業の初めと終わりにけじめを付け、気持ちの良いあいさつをし、自ら服装頭髪を整え、身の回りの整理整頓ができるようになる。	頭髪最終指導が0名となる。	現在まで最終指導0名である。服装に乱れのある生徒が少数ではあるが見られる。指導を継続していきたい。	b	自ら頭髪を整えることができる生徒が増えた。頭髪最終指導まで残った生徒はいない。	a
		長欠調査や学校生活アンケート等を確認し、担任やSC・SSWと連携して、生徒が抱えている問題の解決に向けて対応する。	アンケート方法を工夫し集計の作業量を減らし、生徒と向き合う時間を増やせるよう改善する。毎月1回以上課会を開き、長欠調査と日常の生徒情報を交換し、適切な支援を行う。	臨時休校後の6月のアンケートでは集計の作業量を減らし面談の時間にあてることができた。課会ができない月もあったが、生徒の抱えている問題については担任とケース会議を開き、SCやSSWと連携しながら支援することができた。	b	今年度はコロナ禍の影響が例年よりも相談件数が多かった。生徒が自宅でスマホやPCからアンケートに回答できるようフォームを試した。今後はセキュリティの問題を検討し、来年度以降に実施できるようにしたい。	b
(3)人権教育を充実し、安心して過ごせる学校づくりを一層推進する。	ケータイ安全教室を実施し、ソーシャルネットワーク上での言葉がどのように相手に伝わっているのか考えさせる。今年もStop itの活用法を考えたい。	言葉の取り扱い、個人情報の取り扱いが未熟と考える。SNSの利用法を理解させる。	言葉や画像の取り扱い、個人情報の取り扱いがまだまだ未熟である。ケータイ安全教室の実施(7月末)が遅かった。Stop itの情報が指導に生かされた。	b	ケータイ安全教室の実施(7月末)が遅かったこともあり、まだまだ使用について理解不足で、トラブルの原因になっている。引き続き使用について粘り強く指導していきたい。	b	
	各種行事で一つの目標を持たせ、一体感や仲間意識を持たせることで、充実した学校生活を送らせるようにする。	生活アンケートにおける人間関係のトラブル0件となる。	トラブルが若干起るので、そのつど対応している。	b	先生方の努力により、改善が見られる。	b	
(4)特別支援教育の充実を図り、多様な特性に対応できる教育体制の強化を進める。	特別な支援や配慮の必要な生徒だけでなく、全ての生徒にとってわかりやすいように授業のユニバーサルデザイン化を進める。	昨年度は教員研修で聴覚障害に関する理解を深め、具体的な配慮の実践した。今年度は発達障害や聴覚障害等の生徒への配慮を含む授業のユニバーサルデザイン化に取り組み、公開授業週間等に互いに参観し、7月の教員研修でも方法を共有できるようにする。	ユニバーサルデザイン化の一つとしてフェイスシールドを製作し、教員の口元が見える状態で授業を行った。臨時休校の影響で公開授業はできていないが、8月の教員研修では、グループ協議を行い、ユニバーサルデザイン化に向けた取組や個別の配慮について方法の共有をすることができた。	b	「教育相談保護者の会」を年2回実施し、保護者と情報交換をすることができた。コロナ対策による休校や学校行事の中止で、保護者が来校できる機会が減り、学校の様子がわかりにくく心配されていること等を、研修会で教員に伝達することができた。	b	
	障がい者就職支援の情報を引き続き収集する。	教育相談、保健室との情報共有を図り、障がいのある生徒の進路支援の体制を準備する。	教育相談室、保健室からタイムリーに情報提供を受け、指導に役立っている。	b	生徒の特性について、率直に意見交換のできるくらいの信頼関係を築けている企業を少しずつ増やしているの、この取組を継続したい。	b	
進路指導 (目標を明確にさせる)	(1)インターンシップを推進し、キャリア教育の充実を図る。	インターンシップ可能な会社の確保に努める。	企業にインターンシップについての理解を求め、幅広いインターンシップ先の確保を目指す。	夏の実施はできていない。冬については検討中だが実施は難しい。	c	冬期に企業を絞って実施できた。	b
	(2)積極的に求人開拓を行い、生徒の自己実現を支援する。	進路情報の提供・進路面談・応募前見学・新聞コラムの取組・面接指導等をおとして、自分で進路決定ができるように始動する。	3年生全員の進路実現を目指す。	就職試験が1か月遅れたが、指導は予定どおりできている。	b	4月から10月までの新聞のコラム指導、教員全体での面接指導を実施できた。	a
	(3)進路指導体制の充実を図る。	進路希望者に適切な目標を定めさせ、補習等に参加させる。	進路指導課と連携を取りながら、早い時期から目標を決めさせて対策を立てていく。	ほぼ本人の希望どおりの進路を受験することになる予定。	a	就職37名、4年制大学1名、専門学校1名、自衛隊1名(工業化学科)など、ほぼ希望どおりとなった。	a

4	(1)工業の各分野の学習において、「ものづくり」の意識を高める取組を重視する。	資格取得をとおして、開かれた学校づくりを推進する。生きて働く知識・技能をどのように活用するか意識させる。	ものづくりに係る外部指導者の活用実績が増加する。資格取得の成果が創造的なものづくりにつながる。	外部指導者の活用は9月から再開予定である。各種夏季講習会は例年の約1.4倍の申し込みがあり、大幅な受講者増加につながった。	b	ものづくりマイスター等を用いた外部指導を積極的に行った。意欲向上を図る取組を効果的に改善した結果、学校自己評価アンケートでも指導に係わる保護者の肯定率が向上した。	b
		各学年に、ものづくりに意識させる実習テーマを配置し、知識・技術を身に付けさせる。	ものづくりに必要な興味・知識・技術は持ち合わせていない。ものづくりに興味を持ち、知識・技術を身に付けるようにさせる。	ものづくり主体の実習において、計測法や工具の使用法等を習得させている。3年生は、各種大会が中止で目的が失われたが、課題研究発表会を新たな目標としてがんばっている。	b	各学年において、ものづくりの実習が展開できており、課題研究につながり、製作テーマが充実している。オープンスクールにおいても自信を持って説明できることにつながったと考える。	b
	(2)ものづくりを通して、エネルギー環境教育をさらに発展させる。	環境学習センターと連携して、環境に配慮したものづくり教室を小学生対象に行う。	環境学習センターと連携して、生徒主体のものづくり教室を行っている。今年度も60名以上の小学生を対象に行う。	感染症のため中止となり、これに代わる活動も実施できなかった。	c	感染症のため本年度は実施していない。次年度に向けて、外部機関との計画は進行中である。ただし、受け入れ定員については半減してもらうこととしている。	c
		BDF、燃料電池、新素材の技術を活用して環境教育を推進する。	環境イベントに積極的に参加し、自分たちの学習内容を発表して理解を深めさせる。	イベントは中止となり、元々の計画は実施できなかったが、研究を生かしてアルコール消毒液を作り、近隣の学校に贈呈した。	b	イベントではないが異校種交流に参加し、自分たちの学習内容を発表して理解を深めさせることができた。	b
	(3)資格・検定の取得を一層推進する。	資格取得をとおして、学びのその先を意識させる。	各種技術顕彰取得者を昨年度と同程度にする。地域の進路先と連携した指導体制を確立する。(昨年度工業教育技術顕彰68人、職業教育技術顕彰前期20人、ジュニアマイスター54人)	各種顕彰制度の前期結果は、職業教育技術顕彰16人(昨年度4人)、ジュニアマイスター顕彰19人(昨年度16人)であった。	a	2年生からの申請もあり、年間を通した顕彰制度の該当者は更なる増加が見込まれる。特に危険物取扱者試験は学科を問わず受験者が大幅に増加し、表彰者も昨年度の2倍以上になった。技能五輪候補の指名求人が2件あった。	B
(4)特別活動の活性化を進める。	各行事における生徒会や各委員会の役割を明確にし、より多くの生徒が行事の運営に関わることのできる体制をつくる。また、部活動においては、各部の顧問とホームルーム担任が連携を図り、生徒の活動状況等の情報を共有する。	1年生には全員入部を呼びかけているが、活動状況が不十分な生徒もいる。各部の顧問とホームルーム担任が情報を共有し、全体の年間入部率80%以上を目標とする。	7月1日現在、全校生徒946人中845人が部活動に入部しており、入部率は約90%となっている。しかし、臨時休校の影響もあり、各部が本格的に活動し始めたのが6月中旬頃であるため、今後の動向には注意し、1月にも部活動調査を実施したい。	b	1年生の入部率は高い水準であるが、運動部に入部した生徒が例年に比べて少なかった。また、参加率や活動状況が不十分な生徒も見受けられ、1年生全員入部については、進路保障の側面があるとはいえ、今後検討していく余地がある。委員会活動においては、図書委員会をはじめ、多くの委員会で生徒の主体的な活動を促す工夫が見られた。	b	
(5)開校60周年記念事業に向けた準備開始と、MECIAプロジェクトの具体的な取組を進める。	MECIAプロジェクトを捉えた資格取得を重点的に推進し、効果を見える化する。	資格取得により身に付けた資質をMECIAプロジェクトに生かす。	スーパーエンプライメントハイスクール研究開発事業として現在申請中である。	b	技能検定等と連携した廃プラスチック等の再利用による有効活用の研究を先行開始している。5科連携の枠組を調整中である。	b	
	NEW MECIAの活動を適時記事にしてプロジェクトを後押ししていく。	積極的に情報発信し、生き生きとした活動を伝えていく。	エアロMECIAのノウハウ図書の販売を周知したに留まっている。	c	中間達成状況と同じ。	c	
5	(1)授業公開、授業評価等を活用し、授業改善を図る。	保護者対象の公開授業週間、教員対象の公開授業週間を実施する。また、授業評価アンケートを実施し授業改善の機会を設ける。	保護者向け公開授業及び公開授業週間を年2回設定し、教員同士の授業参観を促進する。合計15日以上を設定する。	教室での密を避ける観点から、今年度は公開授業週間の設定をしていない。授業評価アンケートは11月に実施したい。	b	外部を対象とした公開授業は中止したが、11月に校内の全教員対象の公開授業月間を設定した。全教員に1回以上公開授業を設定してもらい、お互いに見学を行った。全教員の3分の2は見学にも参加してくれた。11月に各教科で授業アンケートを実施し、その結果を各教員に返却した。	b
		IoTを活用した授業を提案・公開して、先進的な取組、設備の充実を図っていく。	授業評価等、公開できる情報を、ホームページに掲載し、本校の魅力を伝えていく。	電気科と建築科で授業・校外学習の様子を公開している。情報技術科の実習動画も公開した。	b	中間達成状況と同じ。	b
	(2)中学生や保護者への積極的な情報提供を行うなど、広報活動の充実を図る。	中学生保護者対象説明会を年2回開催する。また、学校案内やオープンスクール用チラシにも工夫を加える。ホームページの更新を行い、積極的に情報発信を行う。	中学生の減少も考慮に入れ、令和3年度入学者選抜での志願者360名(募集定員の1.15倍)、オープンスクールでの参加者2回合計1000人以上を目指す。近隣の中学校や塾等への訪問を行う。	夏のOSと説明会は中止となったが、生徒募集を考えて7月に教務課と管理職で中学校訪問を行った。秋のOSは実施の予定なので、その準備を行っている最中である。	B	秋のオープンスクールでは対象を3年生のみに限定したにも関わらず、生徒保護者合わせて649名の参加となった。密を避けるため全体を2回に分けて実施した。午後の保護者説明会にも近年では最多の96名の参加があった。	B
		地域連携をとおして開かれた学校づくりを行う。活動内容を発信し、魅力を広く伝える。	ホームページを使って地域連携の実践内容を中学生や保護者に発信する。活動内容をとおして入学志願者が増加する。	現今の社会情勢のため、実践はあまりできていないし、今後の見直しも不透明で補正しにくい状況である。	c	十分な実践はできていない。	c
(3)社会貢献活動に積極的に取り組む、地域との連携を一層密にする。	倉敷市立船穂図書館協働事業を推進する。	実施2回合計15人以上の参加を目指す。	1回目の参加者が13人であった。	a	2回目の参加者は6人であった。	a	
	倉敷町家トラスト等と連携した活動をとおして、魅力ある専門科づくりに取り組む。	昨年度の調査結果を踏まえ、さらに追跡調査を行う。	今後、倉敷町家トラストと連携した活動として、高梁市内の調査活動に参加する予定である。	b	2学期に高梁市の調査を実施する予定であったが、参加することができなかった。	c	
6	(1)SS運動を推進し、安全教育の徹底を図る。	疾病予防のための指導を行う。	新型コロナウイルスやインフルエンザ等の感染症予防のため、感染が予想される時期に消毒用アルコールを設置する。	全職員で協力して行っている。	a	全職員で協力できた。	a
		整備委員会を中心に、5S運動を推進し、学校環境の整備に努める。	各種行事での清掃活動協力6回、下足箱点検5回、清掃分担区域点検3回、教室整備等、5S運動を実践し、校内美化が行き届いているようにする。	整備委員会の活動は、多目的ホールのワックス掛けだけ実施できた。	B	コロナ禍により行事は減少したが、例年通りの活動ができた。	b
		ロッカーの整理・整頓をはじめ、教室内をきれいに保ち、学習環境の向上を図る。	年間を通じて教室の美化を徹底する。	整理・整頓について乱れがちな面が見られる。	b	ほぼ達成できているが、若干整理ができていないところが見られる。	b
	(2)危機管理・防災教育を徹底する。	防災訓練や防災LHRをとおして、防災に関する知識を深め、危険予測に基づいた判断力や行動力を養う。	防災訓練を年2回実施。抜き打ち地震訓練、防災LHRを実施し、防災意識を向上させる。	防災訓練1回、抜き打ち地震訓練を実施した。防災意識の確認ができた。	b	訓練やLHRなどを通して、防災意識の向上を数値的に確認できた。	b